

社会福祉法人天上会 広報誌

2021年 秋号

ひろば



① ねこと友だち(横峯 純さん)



② 水ぞくかん(命苦みゆきさん)



③ 仲間たち(華尾雅美さん)



④ ぼく、泳ぐのはやくなったよ(吉留聡之さん)



⑤ さくらじま(華尾雅美さん)



⑥ ゆめ(本村亜寿美さん)

新理事挨拶・役員評議員等紹介

「新理事あいさつ」

この度、天上会理事を拝命いたしました松元です。昭和61年に就職し今年で36年目を迎えました。障害児施設から始まり障害者施設、デイサービス事業、そして現在の福祉サービス事業と色々な経験をさせていただいています。経験だけは豊富かもしれませんが毎日勉強する事ばかりです。措置から契約に変わり、福祉の制度が時代とともに変わりつつある中で時代に乗り遅れないよう色々取り組んできたつもりですが、うまくいかないこともたびたびあったように思います。そんな中変わらないのが、利用者さんの笑顔です。日々の生活のなかで再三救われた事が、今の私が長く勤める事が出来た要因かと、感謝しています。

そんな中、今はコロナ禍で色々な制限の中で生活しなければいけない状況で、利用者さん及び家族の皆さんにはお願いする事ばかりで恐縮しております。まだ先が見え

カイロス・照葉の森・わたぼうし 施設長 松元 輝徳

ない日々ですが、一日も早い終息を願いながら情報を共有しこの危機を乗り越えていけたらと思います。

今回法人の理事という大役を仰せつかり責任の重大さを感じております。先代の理事長河野和子先生が掲げられた「共生社会」の理念のもと利用者の立場に立ったサービス提供に努め地域の社会資源、各関係機関と連携をとりながら社会の構築に努めていきたいと思っています。最後に私の集大成とし、いままでお世話になった法人に恩返しができるよう、与えられた任務を全うし、理事長のお役に立てるよう精進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



「新理事あいさつ」

40 数年前の春、当時高校生で漠然と福祉系の仕事につきたいと考えていた頃です。児童施設だった新樹学園に見学に行った私は、その時案内して頂いた女性職員の子ども達と笑顔で楽しそうに関わる姿を見て「私もこんな仕事がしたい。こんな支援員さんになりたい」と思うようになり、進路の方向を決めたという思い出があります。いくつかの障害者支援施設を経験した後の平成16年に縁があって天上会の生活支援センターこだまに就職し17年が経過しました。ちょうどその頃は、障害者自立支援法が施行され、障がいのある方々に関わる法律が大きく変わる変革の時期でした。地域に沢山の事業所が増えはじめ、サービスの競争が始まり社会の福祉に関する意識も大きく変化しはじめました。天上会も就労系サービス事業所やグループホーム、相談支援事業所などを開設し利用する方も増え、職員の業務も多岐にわたるようになりました。

めぶき園・はなのこ園・るうと 園長 木村 恵智子

どのような時代の流れにあっても私たちは天上会の理念である「共に生きる。～みんなが頑張ってみんないい」を常に意識した職員でありたいし、あってほしいと思っています。児童から入所、就労支援から介護事業と幅広く展開していくなかでまだまだ、多くの課題もあるように思います。

また私の姪が新樹楽園に入所利用しており保護者に近い立場でもあります。いろいろな立場から天上会を微力ではありますが見守りながら応援していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願い致します。



役員・評議員・第三者委員紹介

役員

役職名	氏 名
理 事 長	前 田 智 史
常務理事	倉 千砂子
理 事	福 谷 平
	上 西 正 子
	出 口 祥 子
	松 元 輝 徳
	木 村 恵智子
監 事	八 木 泰 紀
	池 尻 健 一

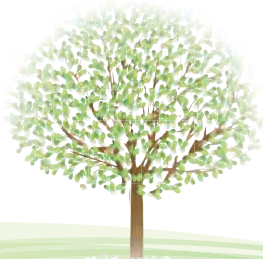
評議員

役職名	氏 名
評 議 員	今 泉 美代子
	畠 中 親 徳
	鶴 田 志 郎
	松 田 幸 久
	野 元 美佐子
	阿 部 幸 一
	村 場 益 夫
	貴 島 正 勝

第三者委員

役職名	氏 名
第三者委員	畠 中 寿 美
	富 重 美 鈴
	阿 部 幸 一





新任職員紹介

新たに当法人に入職した5名の職員をご紹介します。
新しい仲間と共に、より質の高いサービス提供に努めて参ります。



新樹楽園 生活支援員

嶋戸 恵美

- ① 前職の重度心身障がい者施設での経験を活かしていただけたらと思っています。
- ② 目標とゴール
- ③ ドライブ、旅行
- ④ 先見の明



新樹楽園 生活支援員

嶋戸 睦美

- ① 日々学ぶ姿勢を忘れず、仕事に取り組んでいく。
- ② 多職種連携・チームワーク
- ③ ドライブ・旅行
- ④ 実るほど頭の垂れる稲穂かな

① アピールポイント

② 仕事に欠かせないもの

③ リフレッシュ方法

④ 好きな言葉



めぶき園 保育士

西園 あやね

- ① 生きてればなんとかなる精神
- ② 心身の健康
- ③ 旅行、舞台観劇、猫
- ④ 人のふり見て我がふりなおせ



照葉の森 世話人

宮路 潤子

- ① 何事にも真面目にコツコツ取り組みます。
- ② 思いやりの心
- ③ 好きな音楽を聴く
- ④ ありがとう



新樹楽園 生活支援員

東海林 詩

- ① 自分の苦手なことにも向き合う意思があるところ。瞬発的な思考力を持つことが今後の目標です。
- ② 挨拶をすること。(名前を呼び、握手をし、目を合わせる…全利用者さんとどれか一つでも1日のうちにできるようにしたい)
- ③ 一人ドライブ、エッセイ本を読み自分の価値観を見つめなおす。
- ④ 『巡り合わせ』

新型コロナウイルス感染予防ワクチン接種

新樹楽園 次長 谷山ゆうこ

7月10日と31日に鹿屋市のまつだこどもクリニックにご協力頂き、新型コロナウイルスのワクチン接種を実施しました。利用者の中には、既往症や重症化リスクが高い方々もいらっしゃり、もしも感染したら…と考えると不安でいっぱいでしたが、ワクチン接種できたことで、皆さま少し安心できたのではないかと思います。

います。少しでも早くコロナ禍以前の生活に戻り、安心して外出など楽しめるようになるといいですね。





新人職員研修感想

法人内新任職員研修

新樹楽園 東海林 詩

法人研修を受けて、法人理念のお話では、法人創立者の方々の話や、天上会の歴史を学ぶことができ、地域の方々の信頼を得てこれまで運営してきたのだと感じた。法人、そして新樹楽園の看板を背負う職員として、利用者さんを思う気持ちを大切に、障がい分野への知識を深めて、支援員としてのレベルアップを目標にしていきたいと思う。

次に、就業規則・人事考課のお話では、特に人事考課の話が印象的で、なんとなく支援するのではなく、目標を設定し、評価して頂くことで向上心を持つことが出来るのだと感じた。学生とは違い、学業ではない部分での評価なので、自分の設定した目標に重みを感じ、社会人としての自覚をもって業務を行いたいと思った。

次に、支援員に求められることとして、先輩職員を利用者と仮定し、活動前を想定して声掛けを行う演習を行った。「活動に出たくないのではないかな…」「もしかしたら体調が悪いのではないかな…」「新人職員の自分と話をするのが嫌なのかもしれない…」「何か悲しいことがあったのかもしれない」など考えがまとまらず、「もうすぐ活動が始まりますが、一緒に行きませんか？」以外の声かけが思いつかなかった。先輩職員は、「支援の仕方に正解は無い。支援の仕方は「みんな違う」とおっしゃっていた。日頃支援をしていて、先輩職員のご指導が多様でどうしてい

いかわからなくなることもあります。その支援がその先輩職員と利用者さんの関わり方になっているんだと思いました。自分自身もこれからたくさん利用者さんと関わって、先輩職員の支援を参考にしながら自分に合った支援を模索していきたいと思う。

事故防止（ヒヤリハット）、事故対応のお話では、福祉施設に多い事故とその対応について教えていただいた。現在新型コロナウイルスが蔓延しており、いつ新樹楽園にウイルスが入って来てもおかしくない状況だと思う。コロナウイルスが広まったら大事故だと思います。自分は持病の定期検診で鹿児島市内に行くことがあるので、こまめな手指消毒をして、利用者さんの命を守るため責任のある行動をしていこうと思った。

人権擁護のお話では、障がい者虐待などについて教えてもらった。障がい者福祉の現状を知り衝撃を受けた。自分でも障がい者の虐待について情報を集めてみたいと思った。

障害の理解のお話では、言葉だけを聴いて自分が想像した絵を描くと言う演習を行った。5つの言葉を聞き各自で絵を描いた。全員が一致した絵は5個中2個だった。よく絵カードを使って1日の予定や物の片づけ場所などを示す支援を目にするが、その理由を実感することが出来ました。障害特性についてもっと勉強したいと思った。この研修で教えていただいたことを忘れず、天上会職員として日々努めて行きたいと思った。

法人内新任職員研修

めぶき園 西園 あやね

『支援者にもとめられること…』

横から寄り添う支援が「共に生きる」につながる。

～演習として、常務を利用者と見立てて声掛けを行った～

うつむいて床に体育座りで座り込み、動かない利用者に対して、「どうしたの？…」「次の活動は…」「じゃあここから見とく？…」と言ったように、矢継ぎ早に声をかけ、反応のない利用者へ次の声かけを考えたところで終了した。

この演習に正解は無い。と常務はおっしゃったが、後々考えると、自分の対応にはもっと工夫ができたのではないかと感じた。声掛けの間隔をあげ、利用者が自分で考える時間を作る。その場から動かないのであれば、危険がない限りその場で一緒に居る。などの改善点が思い返された。特にその場面で一緒にいることは、「横から寄り添う支援」そのもののように感じた。

めぶき園の「待つことは信じること」にもあるように、一人ひとりの可能性や思いを信じ、寄り添うこと、待つことの大切さを気づくことが出来る演習になった。利用者は職員にとっての教科書であることを忘れず、正直に誠実にかかわっていききたいと実感した。

『障がいを理解すること…』

障がいの見方を変えることで考え方も変わる。

医学モデルでは、疾病が原因で活動制限や参加制限が起きると考えるが、社会モデルでは社会の理解不足、環境不足

によって活動制限や参加制限が起きていると考える。私は、社会モデルの「〇〇すればできる」という考えでありたいと感じた。

障害には特性がある。特性は、「強み」と「弱み」に言い換えることができる。「強み」は支援に生かすものであり、「弱み」は支援者が歩み寄るところと言える。そのため、特性の把握においては、「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要である。

- ・対人関係や集団のなかでの困難と言った社会性の特性
- ・発信と理解のアンバランスさ、場面や状況によりアンバランスさ、言外の意味する意味を把握することの事の苦しさといったコミュニケーションの特性
- ・漠然とした見通し、予定変更、新規場面の苦しさ、なんとなくやだいたい苦しさといった想像力の特性
- ・様々な刺激に対する過敏、鈍麻と言った感覚の特性
- ・複数の情報処理の苦しさや学習に対する不均衡といった認知・記憶の特性
- ・共有、共感の苦しさや注意の持続や範囲の偏りと言った注意・集中の特性
- ・身体の使い方のアンバランスさの姿勢維持の難しさと言った注意・集中の特性
- ・これらの特性を理解して、子供たち今の発達やこれからの支援の方法を考えることがこれから求められてくると考える。

たとえ同じ障がいであっても、どんな強み弱みがあるかは個人で違うため、特性を理解したうえで、本人にあわせたサポート体制をとることが大切である。

カイロス パン工房こかげ



12. つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生活のパターンを
確保する
パン工房 こかげ



SDGsへの取り組み

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことで、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。その中の取り組みの一つに、食品ロス（食品の廃棄）も含まれています。

パン工房こかげでも、廃棄パンに着目し、少しでもフードロスを減らせればと模索して来ました。「まだ食べられるのに捨てなければならないパンをなくしたい!」との思いから、パン工房こかげの店舗では、前日のパンを袋詰めしセット販売で割安で販売していましたが、それでも廃棄パンが出てしまう現状から、インターネットで「Rebake」というフードロスに取り組むサイトを見つけました。そのサイトでは、日本中のパン屋さんが登録していることがわかりました。Rebakeでは、まだまだおいしく食べられるパンを急速冷凍し、日本全国の希望者のもとへ届けるサービスをしています。

皆さんぜひ一度お試しください!!

下記URLを入力いただくか、QRコードからRebakeのページに入ることができます。ご利用に際しましては、Rebakeホームページを参照してください。

URL <https://rebake.me/shops/kagoshima/kimotsukichou/636>



QRコード

新樹楽園

日帰り旅行

新樹楽園支援員 前原 孔太

今年も、新型コロナウイルス感染症の為、3班に分かれて志布志大黒リゾートホテルに行ってきました。

バスの中では、クイズやイントロゲームで盛り上がり、イルカランドでは水しぶきを上げて色んな芸を見せてくれる迫力あるイルカショーに歓声を上げる人や、おっかなびっくりの人もいて、イルカとの触れ合いを楽しみました。

昼食は、広大な志布志湾を眺めながら新鮮な魚料理を頂きました。

午後からは、遊園地や串間の道の駅でお土産を買って楽しい時間を過ごしました。



支える人

第6回

「めぶき園、はなのこ園のパートさん達」

～今回は、めるはなのパートさんを紹介します～

めぶき園・るうと・はなのこ園（略して、め・る・は・な）は天上会のこどもの療育を行う支援の現場です。

そのなかで、保育士・介護福祉士のパートさんたちは、こどもたちも大好きです。

いつも笑顔で優しく寄り添ってくれるとても大切な存在です。

そんな、スーパーなパートさんたちにインタビューをしました。

質問内容

- Q1 好きな言葉は何ですか。
- Q2 子ども達と関わる中で心掛けていることは何ですか。
- Q3 どんな時に“この仕事をやってよかった”と思いますか。
- Q4 あなたにとってめるはなの理念「待つことは信じること」とは。

【めぶき園 保育士】

◆ 徳留 ひとみ

- A1 感謝。
- A2 安全に過ごせるように気をつけること。子どもの表情や思いを聞き、声掛け行動すること。
- A3 子ども達の成長をすぐ近くで見守れる時、そしてその成長をみんなで喜べる時。
- A4 子ども達の気持ちを受けとめ寄り添うこと。



◆ 赤野 昌子

- A1 信頼。
- A2 子ども達の事を理解できるよう、たくさん接して表情や行動をみるようにしています。
- A3 子どもができなかったことができるようになり、ほめると嬉しそうにして、共感できた時です。
- A4 子ども達が自分から動けるよう支援していくこと。先にやってしまったり、言ってしまうたりしないよう心掛けています。



◆ 竹ノ内 美和子

- A1 ありがとう。
- A2 「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」山本五十六さんの言葉ですが、療育にぴったりな言葉だなと思って時々思い出しでは心掛けています。
- A3 子ども達のやった！できた！の顔を見れた時。
- A4 もう少し待ってあげたら良かったのかな？ちょっと付き合いすぎたかな？無理に誘いすぎたかな？と日々反省したり、先輩の先生方を見て学んでいるところ



◆ 岡本 史江

- A1 平穏。
- A2 共感すること 楽しむこと おもしろがること。
- A3 子ども達のできた！や、ドキドキしたけど手応えあり！の表情を見る時。
- A4 前大村園長の言葉をかけると前から引っ張らず後ろから押さず横と一緒に歩くこと、一人一人の発達道の筋をたどる様をたどっていく力があるそれを培っていく過程を信じて待ちながら一緒に日々を過ごすこと。



【はなのこ園 保育士】

◆ 坂下 ひとみ

- A1 なるようになる。
- A2 子どもたち一人ひとりに愛情を持って寄り添い、いつも明るい表情で接するように心掛けています。
- A3 子どもたちの笑顔や表情を見られた時やいろいろな成長を感じられた時はとても嬉しい気持ちになります（やりがいを感じる場面がたくさんある仕事だと感じます）。
- A4 子どもを育つ力を信じて待つこと。子どもを信じて待つことの大切さだと思っています。





① ねこと友だち

画用紙(270mm×380mm)を4枚組み合わせた作品ですが、横峯純さん独特のらせん状に描く作品で、見る人を楽しませる作品だと思います。(横峯 純さん)



④ ぼく、泳ぐのはやくなったよ——

スイミングスクール様子を素直に表現し、あたかも多くのお客さんが応援しているかのように構成しているのも絵として面白い効果が出ていると思います。(吉留聡之さん)



② 水ぞくかん

水族館の様子を実際あり得ない魚色を明るく表現している上、見ていて水流を感じる楽しい作品だと思います。(命苦みゆきさん)



⑤ さくらじま

桜島・海・花の構図で暖かさを感じます。また、桜島を幾何学的に描いているのも面白いと思います。(華尾雅美さん)



③ 仲間たち

花の中に職員の方でしょうか…数人の顔を描いているのがとてもユニークで年齢を感じさせない色彩感覚を感じました。(華尾雅美さん)



⑥ ゆめ

桜島の噴火口に竜とジャンプしたイルカ上部の左右には自分とお友達でしょうか、下の方にも女性の方、猿など、角度を変えて見ることで本村さんの夢の世界に引き込まれそうです。(本村亜寿美さん)

全体の感想

描かれた作品は、その人らしさが素直に表現されていると思います。また、物の形態を自分なりの感情で表現していることに、私も感心しながら勉強させられます。

地域の方からのお便り

こんにちは。はじめまして。
突然のお手紙で失礼します。
私は大崎町に住む、黒石と申します。
こちらで作られたトマトの苗を植えてりっぱに育っているうれしさを伝えていくペンを取りました。
最近、家庭菜園を始めた初心者です。
友人にうちのトマトの写真を見せたら、皆、ロクそうえて「どの苗？」と聞かれました。
それで苗がとても重要なんだということを知りました。
丹精込めて作られた苗が知らない人に渡ってその人の心を喜ばせています。
最後に私の愛読書にこんな言葉がありました。
「勤勉さは人の貴重な宝である」
まさに皆さんの付きは宝のようです。
梅雨の不安定な時期ですから、体調に気を付けてお過ごし下さい。
感謝を込めて、

黒石琴美

編集
後記

東京オリンピックパラリンピックも新型コロナウイルスの影響を受け無観客での開催となりましたが選手たちの頑張りには一喜一憂し、勇気をもらいました。

各地域では新型コロナウイルスが広がりを見せるなど、まだまだ気の抜けない日々が続いています。天上会でも様々な行事が実施できずにいます。私達支援員は、少しでも楽しみのある活動を提供し行事が実施できない現状の寂しさを和らげることが出来ればと考えております。以前のような環境に戻る事を願いながら、さらに感染対策の徹底に努めて参りたいと思います。

「ひろば」を最後までお読みいただきありがとうございます。たくさんの方々にご協力頂き、無事発行することが出来ました。今後ともよろしくお願い申し上げます。(梶井 明希)

広報委員：前田・稲田・倉園・前原・黒田・小島・嶋戸陸・右田・牧・出石・木村・松元・梶井